

# 人として生きる気概があるのです 「自立支援」という言葉の奥には



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット  
「デイサービスけやき通り」代表取締役

この連載も残すところあと2回。今こうして、私の拙い文章を読んでくださっている方に本当に感謝いたします。

先月号で、障がい当事者によるNPO法人学びあい（以下、「学びあい」と略します）の設立の話を書きました。この「学びあい」にはケアマネさんも入会されており、こういった側面からも支援してもらっている私たちです。今回はその続きで、「出番と尊厳」というお話を書き進めたいと思います。



## 障がい者ではなく 障がい体験者

高齢者や障がい者は、ただ救済を待つだけの人間ではなく、もっと、社会のために働くことができる人間です。

もちろん、もう昔みたいに、何から何まで自分ではできません。しかし、高齢者には長く生きてきた人生経験が、障がい者には障がい経験があります。

Experience。経験・体験があるのです。もしかすると若い健常者や、若いケアマネさんにはない、貴重な経験を有しているのかもしれませんが。

私たちは、障がい者11名、医療専門職者等11名で、その「Experience 経験・体験」をNPO活動で生かし、「出番」を作っていきます。

「強み」を社会のために役立てることは、厚生労働省が言う「居場所と出

番」の考え方だと思います。



## NPO学びあいの 活動は3タイプ

私たちの活動は、(1) 体験を生かした講義、(2) 研修イベント企画、(3) 協働研究——です。

(1)については、NPO内で「講師・協働講師育成研修」を行い、会員の講義力をつけ、私が各専門学校や学会企画部に広報活動しています。広報というか営業というか…。この秋にはリハビリ系の学校で4人の当事者講師が誕生し、来年の2月には、リハビリ系の学会で、講演のため5人の講師と、片手の生活行為（料理・革細工・切り絵）のコツについて、実演を担当することが決まっています。

語りも実演も「経験」をした者しかできないことであり、それが、医療福祉への大きな社会貢献になると自負しています。メンバーには「介護保険卒業生」も4名おり、当事者の目線で「介護保険法」を語るができます。

(2)については、すでに「第1回日田リハビリサミット」という企画を行いました。大分県日田市の会場に150名を越える人が集まり、講演、対談、実演などを行い、医療中心で考えるのではなく、当事者の視点で企画し実施されました。とても意義あるイベントでした。

葉山 靖明 はやま やすあき  
1965年福岡県生まれの51歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

(3)については、東京でケアマネさんへの講習会の講師もよく担当する、目白大学の小林幸治准教授（右の写真の真ん中の方です）と私で、少しずつ始めています。

そして、これらが「学びあい」の当事者の「社会的な居場所や社会への出番」になると実感しています。「介護」という視点ではなく、人がこの世に生を受け、人々のために働き、生き抜くために、「居場所と出番」は本当に必要だと思います。



## 協働アプローチ論

「学びあい」は、上述した小林幸治准教授の「協働アプローチ論」の提唱により成立し、それを具体的な活動原理としています。

協働アプローチ論とは、小林氏によれば、「支援者と障がい当事者が、共通の目標に向けて、協力しあいながら、具体的に行動していく。共通の目標とは、当事者が、自身を障がいという貴重



NPOの面々。一番右が羽野理事長、真ん中が小林准教授。講習会前にて

な経験をした人であると認識し、その経験を社会や他人のために活かす活動をする事」。具体的には、講演者は「出番」「生きがい」を得、医療専門職者は教科書には載っていない当事者の痛み・苦悩・生きるための支援策、生きがいを知ることができます。

最近も講演会で計180名のOT、PTに「当事者の感謝と本音」を伝えたと、臨場で生かせる！」と評価していただき、私自身、涙が出そうでした。



## 尊厳

先日『92歳のパリジェンヌ』というフ

ランス映画を観ました。90を超えても元気なおばあちゃんが、まだ入院や入居はしていないのですが、「自分の人生は自分で決める」と、自分の寿命を自分で決め、アパートの部屋で尊厳死するという実話でした。ショッキングな内容だったのですが、自己決定できなくなり、社会に救済されるだけの状態がどれほど辛いかは、私も十二分に経験してきました。

自己決定、自己選択、出番、居場所、社会貢献。私を含む「学びあい」のメンバーも、そういったことがやりたくてNPO活動を始めた仲間なのです。

その部分は、ケアマネさんにも、「自立支援」という言葉の奥に、必ず見出していきたい、人として生きる気概なのです。

## 今月の私

## 片手の料理教室でにわか講師に



この後の煮込みうどんがとても美味かったのは、当然ですよね。  
(\*^^\*)

成感が押し寄せてきました。  
私は慌てて三角巾を外し、エプロンはつけたまま（写真）、10数名の方々の前に、「病院と自宅でのリハビリの違い」について、「ミニ講義」終了すると、ふうーと安堵感と達成感が押し寄せてきました。  
そしたら急に彼女が、「今日は大学で講義もされている葉山さんが来ますから、20分でミニ講義をしてもらいましょう！みなさん、拍手〜！」と、マジにムチャぶり！

10月の下旬、私の友人（同志？）が「アップル・サロン」という片手の料理教室を東京・世田谷区で開催しているというので見学に行きました。参加者は私と同じ当事者の方々。その日のメニューは、煮込みうどんと人參の白和えなど。元来、栄養士だった友人はone handになっても、教え方が上手で、聞きほれていました。  
そしたら急に彼女が、「今日は大学で講義もされている葉山さんが来ますから、20分でミニ講義をしてもらいましょう！みなさん、拍手〜！」と、マジにムチャぶり！